



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2022年9月 第4号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:アメリカの学校生活

夏休みが終わり、少し涼しくなりましたね。アメリカでは、9月になったら、新しい学年が始まりますよ。今月は、アメリカの学校生活を紹介します。

まず、アメリカの学年は、9月からスタートして、6月に終わります。つまり、アメリカの生徒は約3か月の長い夏休みが楽しめます。日本の生徒は夏休みの間、大量の宿題をしなければなりません。しかし、アメリカは、学校や学年によって違いますが、殆どありませんでした。私の経験では、高校に入ってから、普通コースではなく、レベルの高い勉強ができる生徒向けのコースだったので、夏休みの宿題は少しありましたが、小説を読み、感想文を書くことくらいでした。普通コースの生徒は宿題がありませんでした。

を利用し、新学年に必要な文房具や洋服を買いに行きます。場所によっては、学校の資金が不足しているので、最近先生が保護者にクラスの生徒全員で共用するために文房具や教材を購入するようにお願いしています。



(私の高校の Martin Luther King Day 全校集会)

日本では小学校、中学校、高校に入学した時に入学式を行います。アメリカでは入学式がありません。学校の最初の日に直接教室に行きます。しかも、小学校は1年生からではなく、5歳の年長から始まります。英語では、kindergarten(キンダーガートン)と言います。一般的に、小学校(elementary school)は kindergarten から小学校5年生(5th grade)まで、中学校(middle school)は6年生(6th grade、日本の小6)から8年生(8th grade、



(Back to School Sale の様子)

夏休みが終わる前に、Back to School のセール



日本の中2まで、高校(high school)は9年生(9th grade、日本の中3)から12年生(12th grade、日本の高3)までです。つまり、6年・3年・4年で、合計13年アメリカ人は学校に通っています。高校の学年には特別な呼び方があります。高校1年から4年までそれぞれ freshman(フレッシュマン), sophomore(ソフオモア), junior(ジュニア), senior(シニア)と言います。大学も同じ言い方です。



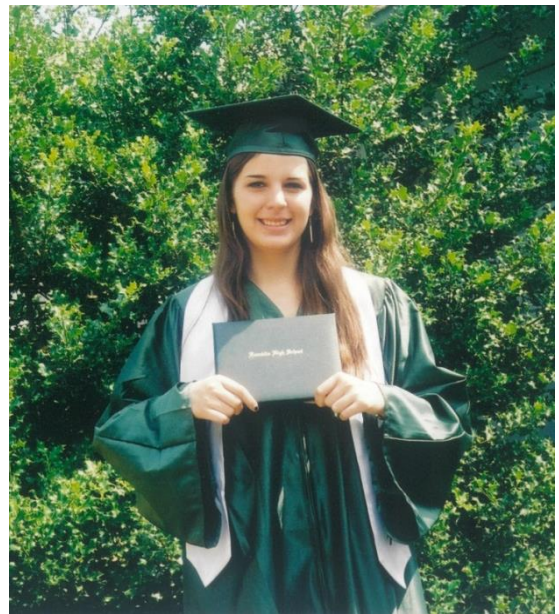
(私の Senior Prom。男子はただの友達)

アメリカは日本と比べて、1年間の行事が少ないような気がします。そして、州や学区や学校によって、行事が違います。上記のように、入学式もないし、私の学校では、始業式、終業式、修了式、運動会、学校祭、修学旅行などをしたことがありません。全校集会で歌を歌ったり、演劇やダンスを披露したりしたことがあります。私の小学校は黒人や移民が多い地区にあったからかもしれませんが、毎年1月に行う Martin Luther King Jr.の誕生日集会が一番大きなイベントでした。毎年全校生徒と保護者みんな Stevie Wonder の曲「ハッピー・バースデー」を合唱しました。高校の時に、選手を励ますために pep rally(ペップ・ラリー)という集会を

試合前に行いました。全校のダンスもあるし、高校を卒業する前に prom(プロム)というフォーマルなパーティーがあります。男子はタキシードで、女子はイブニングドレスを着ます。ちなみに、私は誰にも誘われなかったのですが、友達と一緒に promに行きました。デートではありませんでした！

最後に、6月に卒業式があります。日本の卒業式は堅苦しい一方で、アメリカの卒業式は解放感があります。大抵外で行うし、生徒はスピーチを聞きながら笑い声や歓声を出します。友達の名前が呼ばれ、卒業証書もらいにステージに上がったら、大声で声援を送ります。卒業式にキャップとガウンを着用しますが、その下の服装は自由です。生徒全員が卒業証書もらったなら、同時にキャップを空に投げます。投げたら無くすので、事前に名前を中に書かないといけません。アメリカの卒業式は泣く人が何人かいますが、全体的に楽しい雰囲気です。

アメリカの学校生活は日本と比べて、自由でカジュアルな感じがしますね。もし機会があり、本人の希望もあれば、私の娘を留学させてあげたいと思っています。★



(私の cap and gown 姿。私の高校の色が黒と緑なので、男子は黒で、女子は緑)

Photo credits: page 1: Daniel Case and Joe Mabel (Wikimedia Commons), page 2: Krystal Sato, page 3: Anthony Tartan, other illustrations from irasutoya.com and maxpixel.net

お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24 番地の 6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434



ALT の紹介: アンソニー・タータン先生

江別市に10人の外国語指導助手(ALT)が住んでいます。今月はアンソニー・タータン先生が自己紹介を書いてくださいました。また ALT の紹介があるかもしれないので、楽しみに！



(アンソニー先生と奥さんの美沙子さん)

グッダイ！オーストラリアのブリスベンから参りましたアンソニーと申します。

今年の4月から江別市の大麻西小、いずみ野小、文京台小で英語を教えています。3月中には他の ALT の授業を見学させていただき、色々な学校に行き、沢山の生徒と会いました。

教育関係の仕事は13年目です。2006年からオーストラリアでモンテッソーリ教育の学校で体育を教え、それからルーテル教会の小学校で二年生の担任になりました。その後、ブリスベンを市議会で、人材開発と防災対策を担当していました。新人スタッフに新しいスキルや暴風と洪水の防災対策を教えていました。



(ブリスベン)

大学の時の目標は、専攻の教育分野を活かし、海外で働くことでした。子どもの時から、日本の食べ物、アニメ、文化と歴史に興味があったので、一番住みたかった国は日本でした。オーストラリア人

の少年の僕にとって、日本が世界一面白い場所でした。31歳の時に、JET プログラムの参加者として来日し、長崎県新上五島町で6年間高校の ALT をしました。島の生活は最高でした。田舎が大好きで、一緒に釣りやダイビングをする友達を沢山作りました。

ブリスベンの人口は約260万人で、オーストラリアではシドニーとメルボルンの次に3番目に大きい都市です。大学が多いので、ブリスベンとゴールドコースト(ブリスベンから南90分)に世界中から沢山の留学生が来ます。毎年1月に「ブリスベン国際」というテニストーナメントが開催されます。両親がファンなので、よく見に行きます。ブリスベンと北海道の距離は約8000kmで、ブリスベンの気候、環境、暑い夏の生活が恋しいです。しかし、今の目標は江別で家庭を築きたいと思っています。★



(オーストラリアの動物: ↑ Possum ↓ Frillneck Lizard)